

CASBEE広島における重点項目の環境配慮設計概要

中日本航空機広島新格納庫

CASBEE-広島 (2010年ver.1)

※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。

配慮項目	評価点	重み係数	内 訳			
■1.「地球温暖化対策」の推進						
1.1 建物の熱負荷抑制						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	0.37	Q1	室内環境	2 温熱環境	2.1 室温制御
	3.0	0.63	LR1	エネルギー	1 建物の熱負荷抑制	
小計	3.0	0.05				
1.2 自然エネルギーの利用						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	0.50	LR1	エネルギー	2 自然エネルギー利用	2.1 自然エネルギーの直接利用
	3.0	0.50	LR1	エネルギー	2 自然エネルギー利用	2.2 自然エネルギーの変換利用
小計	3.0	0.14				
1.3 設備システムの高効率化						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。□	3.0	1.00	LR1	エネルギー	3 設備システムの高効率化	
小計	3.0	0.22				
1.4 設備システムの効率的運用						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	0.50	LR1	エネルギー	4 効率的運用	4.1 モニタリング
	3.0	0.50	LR1	エネルギー	4 効率的運用	4.2 運用管理体制
小計	3.0	0.14				
1.5 資源・マテリアル対策						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。□	4.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	1 水資源保護	1.1 節水
超節水型器具及び擬音装置付	3.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	1 水資源保護	1.2 雨水利用・雑排水再利用
基礎に高炉セメントを使用	3.0	0.04	LR2	資源・マテリアル	1 水資源保護	1.2 雨水利用・雑排水再利用
ビニール床材、壁紙にエコマーク商品を採用	2.0	0.06	LR2	資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.1 材料使用量の削減
建設汚泥再生処理土採用	3.0	0.20	LR2	資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.2 既存建築躯体等の継続使用
躯体と仕上げが用意に分離可能	4.0	0.17	LR2	資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用
	5.0	0.17	LR2	資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用
	3.0	0.06	LR2	資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.5 持続可能な森林から産出された木材
	5.0	0.20	LR2	資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み
小計	3.9	0.31				
1.6 ライフサイクルCO2排出率						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	1.00	LR3	敷地外環境	1 地球温暖化への配慮	
小計	3.0	0.13				
1.「地球温暖化対策」の推進の評価						
	3.3	0.69				
■2.「ヒートアイランド対策」の推進						
2.1 温熱環境の向上						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	2.0	0.52	Q3	室外環境(敷地内)	1 生物環境の保全と創出	
燃焼機器を使用していない	2.0	0.26	Q3	室外環境(敷地内)	3 地域性・アメニティへの配慮	3.2 敷地内温熱環境の向上
	2.0	0.23	LR3	敷地外環境	2 地域環境への配慮	2.2 温熱環境悪化の改善
小計	2.0	0.96				
2.2 交通負荷抑制						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	3.0	1.00	LR3	敷地外環境	2 地域環境への配慮	2.3 地域インフラへの負荷抑制
小計	3.0	0.04				
2.「ヒートアイランド対策」の推進の評価						
	2.0	0.21				
■3.「長寿命化対策」の推進						
3.1 耐用性の向上						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	4.0	0.47	Q2	サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.1 部品・部材の耐用年数
大地震時に25%増の耐震性能を確保	3.0	0.12	Q2	サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.1 部品・部材の耐用年数
	3.0	0.09	Q2	サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数
	3.0	0.09	Q2	サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数
	3.0	0.04	Q2	サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数
	3.0	0.03	Q2	サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数
	3.0	0.06	Q2	サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数
	3.0	0.09	Q2	サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数
小計	3.5	0.70				
3.2 設備の更新性						
(コメント) ※設計の計画に特段に配慮した事項を記載してください。	3.0	0.17	Q2	サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性
非常用発電機を設け、受変電設備と共に屋上に設置 弱電用空配管	3.0	0.17	Q2	サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性
	5.0	0.11	Q2	サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性
	5.0	0.11	Q2	サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性
	3.0	0.22	Q2	サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性
	3.0	0.22	Q2	サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性
	3.0	0.09	Q2	サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数
小計	3.4	0.30				
3.「長寿命化対策」の推進の平均点(上記2項目)						
	3.5	0.10				
■重点項目の総平均(上記3項目)						
	3.0					